

へんしゅうこうき  
編集後記

自分自身、青少年時代無線に興味を持ちラジオ教育研究所の通信教育を受けて勉強したことがあり、名古屋市にあった勤務先の独身寮に厄介になっていましたので、しばしば大須のジャンク屋を訪れたり、栄の中野無線やカトー無線でパーツやキットを買っては受信機を組み立ててオーバーシーのウォッチ、BCLとして放送局のベリカード収集や時にはHAMの皆さんのラグチューを傍聴して楽しんだ経験を持っています。

今回の調査は、日本という国の黎明期の重要な通信にかかわる歴史を掘り起こすといつてもない範疇のことでしかも無線技術面では素人の悲しさで恥ずかしく感ずる次第です。このHPをご覧になられた諸賢のご叱責、ご指導のほど宜しくお願いします。(川森)

1954年(昭和29年)頃のQSLベリカード

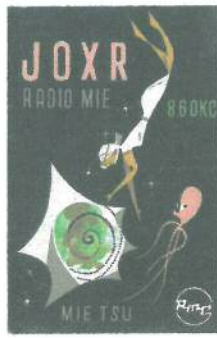
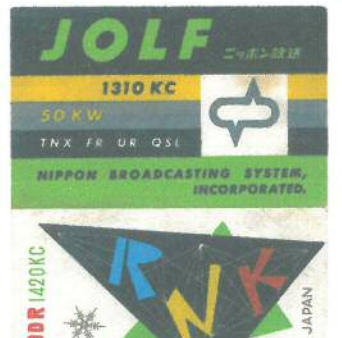
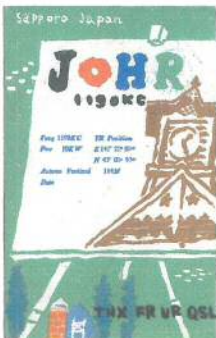
受信機：自作7球スーパー

増幅RF1段・IF2段

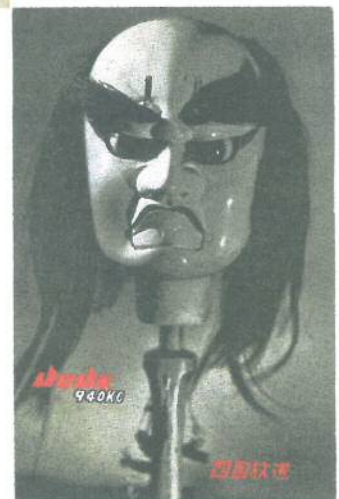
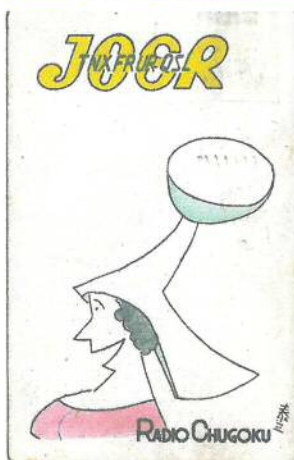
受信帯 中波/短波

アンテナ：室内アンテナ

受信場所：名古屋市昭和区







郵便はがき  
名古屋市昭和社  
南分軒二  
中海電通通信局  
川森一成 拝  
別紙  
ラジオ高知  
高知市中央区三丁目  
電話 422-1111  
422-1112  
422-1113  
422-1114  
422-1115  
422-1116  
422-1117  
422-1118  
422-1119  
422-1120

これらのカードは、民間放送が次々開局する頃で、空もまだまだ余裕があったので結構遠くの局をウォッチ可能でした。それでも、放送が終わる前を狙ってコールサインを確認する苦勞をした記憶があります。今、中波はQRMがひどくて無理かも知れませんね。